

斎藤孝之輔 君 三条八幡宮 藤崎宮司様、本日はよろしくお願ひ致します。
メリ亞大関様ようこそ、カレーおいしかったですか？

斎藤 良行 君 藤崎様、本日はよろしくお願ひいたします。

長谷川千佳 君 先日、息子の入隊式に行ってきました。制服を着た息子が少し立派に見えました。
藤崎さん、今日は宜しくお願ひ致します。

石川 一昭 君 花井委員長へ、日頃の感謝に!!

羽賀 一真 君 藤崎宮司、本日はようこそいらっしゃいました。

米山 忠俊 君 本日は藤崎 三条八幡宮司様、卓話ありがとうございます。

高橋 暢雄 君 藤崎宮司様、本日はよろしくお願ひいたします。

渕岡 茂 君 花井委員長に協力。

外山 裕一 君 BOXに協力。

落合 益夫 君 BOXに協力。

野崎 喜嗣 君 メリア 大関さん、ようこそ北ロータリーへ。入会お待ちしております！

森 宏 君 花見の季節、強風や雨で楽しめないですね。

佐藤 義英 君 BOXに協力!!

花井 知之 君 本日も皆様の御協力に感謝いたします。ありがとうございます。

本日の行事：「外部卓話」

講師紹介：高橋 暢雄 プログラム委員長

皆さん、こんにちは。本日は4月15日、あと1ヶ月で三条祭りということで、八幡様の藤崎さんをお呼びして、「日本の笛」と題して卓話をいただきます。その中で数曲披露していただけるということですので、早速ですがよろしくお願ひいたします。



「日本の笛」

三条八幡宮 宮司 藤崎 重康 様

皆様、こんにちは。今日はお声をおかけいただきまして、誠にありがとうございます。ちょうど1ヶ月後のこの時間は、行列が街に出ているということでございます。本当にお天気を願うばかりです。

現在は600件近くでしょうか、いろんな事業所や個人宅もお伺いして、なんとか八幡宮の春季大祭「三条祭り」が成り立っております。是非ともまた来年度も皆様にご協力を願いたいと思います。

今年は昭和100年ということですが、私が宮司になったのは昭和で言うと70年、そして昭和80年の年に新社殿になりました。そういった意味で今年は20周年の三条祭りとなります。

子どものころからずっと目の当たりにしておりますが、大分様変わりをしてきております。ただ、行列自体は伝統を守り昔のまま行っており、5月1日になれば囃子方の笛や太鼓の練習が始まり、奴さん、道祖神、天狗さんの稽古も始まります。子供のころから耳で、目で、慣れ親しんでおりました。では、行列の笛をお聴きください。

～（演奏）～

今は大名行列と言っていますが、昔は神輿渡御（みこしとぎょ）行列と言って、八幡様の神様を神輿に乗せて市中を回ります。大名行列が八幡宮を出発して田島橋に着くまで囃子方の演奏が続きます。主にゆったりめの行列拍子がほとんどですが、市内三か所、諏訪神社、住吉神社、愛宕神社でリズミックなシャギリが演奏されます。

どうしてシャギリという囃子になるかというと、三条ではカタカナで書いてシャギリと言いますが、「車切り」と書き、元々は車の向きを変えることを言います。

諏訪様、住吉様、愛宕様にご挨拶して車の向きを変える際に、勢いをつけることでテンポのいいシャギリをやったのではないかと思われています。

村上も屋台のことを「おしゃぎり」と言いますが、やはり関連のあることだと思います。

14日の宵宮祭から15日の行列が終わるまで、境内は大変にぎわうのですが、春季大祭というものは14日



15日 16日で、16日には今でも神楽を奉納しています。

～（演奏）～

一番有名なのは恵比寿と大黒が即興劇と言いましょうか、恵比寿様の釣竿を借りて大黒様が鯛を釣るという神楽です。その豊漁を喜び、見ている人に菓子や餅を撒くという、今でも人気の舞です。そういう時に使われる笛です。

私はそういった神楽の笛に興味があり、中学のころ見様見真似でかじったことが、その後の私の人生に影響しまして、大学を出てからは神社に携わらず演奏活動に明け暮れておりました。日本音楽集団というところに50年前に入団し、宮司になったのが30年前ということで、新しい社殿になるまで二刀流と言いますか、二足の草鞋でやっておりました。

今の笛が「篠笛（しのぶえ）」といいまして、これは庶民の笛です。

次は「竜笛（りゅうてき）」といい、唐の時代に日本に雅楽で使われます。これは日本の笛と違い穴が大きく吹き口も大きいです。大きな音がでます。中国は国土が広いので、やはり狭い所というより遠目がするような笛だったと思います。京の五条の橋の上で牛若丸が吹いていた笛が、時代からするとこの竜笛だと思われます。

この竜笛を、室町中世のころに改良されてできたのが「能管（のうかん）」という笛で、笛としての楽器の機能をわざと壊した、日本の樂器ではあります。メロディ樂器ではないです。

～（演奏）～

幽玄な感じがするかと思います。能の主人公の「シテ」が能舞台に静々と出てくるときに吹かれ、演奏が終わるとシテは自己紹介をします。独奏になります。普段、樂器は4人います。笛、小鼓、太鼓、締太鼓の4人が樂器セクションになります。四拍子になり、この笛はメロディではなく、リズ

ムを担っています。

なかなか能や歌舞伎は身近なものではなく、能管も馴染みがないかもしれません、必ず皆さんが聞かれているものがあります。季節が夏ではないので雰囲気がでませんが、お化けが出てくる時のあのヒューって音はこの能管が担当しています。あと、因みにお雛様の五人雛子は先ほどの4人プラス謡（うたい）になります。来年お雛様を出される時にはよく見てください。笛は能管です。

縦笛で代表的なのは尺八ですが、日本の音階は五つで五音音階で5つの穴が開いていますが、いろんな曲を吹くために7つの穴や九つの穴の尺八があります。尺八というと綺麗な音のフルートと音域がだいたい同じですが、綺麗な音ばかりでなく、色々な音も出します。

コロコロという奏法、音を震わす玉音、カラカラがあります。

擬音によく使うんですが、その最たるもの裏息を使うわざと汚い音を出すという特徴的な奏法もあります。

今は若い方もたくさん色々な樂器をされますが、私が始めた頃は戦前のものは皆否定され、日本の音楽は古臭いと思われていましたが、非常に魅力的な樂器です。

最後に、テレビアニメの「犬夜叉」を担当していましたので、久しぶりに演奏して終わりたいと思います。

～（演奏）～

何十年も前の話なんで、最近は腕が落ちてしまいお聞き苦しかったかと思います。

本日は、日本の樂器「笛」に関して、簡単に解説と、その樂器独特の曲を聞いていただきました。誠にありがとうございました。



5月 のお祝い

会員誕生日 大橋桂子、羽賀一真、武田恒夫、小林伸行

（敬称略）

ご夫人誕生日 渕岡 文

結婚記念日 森 宏・由実、宮川雄一郎・律子
吉田文彦・由美子、高橋暢雄・瑞記